

2020 年度 課題研究会活動成果報告書

課題研究会名：薬剤情報リテラシー教育研究会

設置期間：2017/04-2021/03

代表幹事の氏名・所属：池田 和之・奈良県立医科大学附属病院

幹事の氏名・所属：岡橋 孝侍 京都第二赤十字病院（JAMI 評議員）
木下 元一 名古屋第二赤十字病院（JAMI 評議員）
小枝 伸行 八尾市立病院（JAMI 評議員）
関谷 泰明 岐阜県総合医療センター（JAMI 評議員）

活動成果の概要：

本年度は、薬剤領域の情報システム関連のリテラシーとして、昨年度公開した「厚生労働省通知「調剤業務のあり方について」に関する情報通信技術の利用に関する提言」の周知、薬学領域の教育現場における医療情報教育の現状調査を計画した。特に医療情報学連合大会では、本課題研究会の公募シンポジウムを行い、薬剤関連における情報通信技術のあり方および情報リテラシーの必要性、調剤機器等における業界認証の必要性などが提言された。一方で、新型コロナウイルス感染症の蔓延により学会等が延期・中止となり予定していた活動は遅延した。なお、薬学領域の教育現場における医療情報教育の現状調査は、第41回医療情報学連合大会にて本課題研究会の総括としてポスター発表を予定している。

薬剤と情報システム研究会 2020 in 奈良（主催：薬剤師・医療情報技師会）

医療情報システムを安全に使うために

奈良県立医科大学附属病院薬剤部 池田和之

医薬品安全管理に関する最近の話題

医薬品安全使用調査研究機構設立準備室 土屋文人

第40回医療情報学連合大会（第21回日本医療情報学会学術大会）

共同企画 11

薬剤情報の連携のこれからと課題

オーガナイザー：池田 和之（奈良県立医科大学附属病院）

座長：木村 雅彦（一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会）

池田 和之（奈良県立医科大学附属病院）

改正薬剤師法・薬機法に伴い医療機関・薬局が薬剤情報の連携をするために克服すべき課題

土屋 文人（医薬品安全使用調査研究機構設立準備室）

薬剤システムの現状・近い将来とこれからの課題

高田 敦史（九州大学病院メディカル・インフォメーションセンター）

公募ワークショップ6

調剤業務と医療情報システムのこれからの図る

ー「調剤業務のあり方について」における情報通信技術の活用に関する提言ー

オーガナイザー：池田 和之（奈良県立医科大学附属病院）

座長：岡橋 孝侍（京都第二赤十字病院薬剤部／医療情報室（兼務））

関谷 泰明（岐阜県総合医療センター薬剤部）

「調剤業務のあり方について」における情報通信技術の活用に関する提言

池田 和之（奈良県立医科大学附属病院）

情報通信技術の活用事例：処方監査と疑義照会

木下 元一（前名古屋第二赤十字病院薬剤部）

対人業務の充実に必要な取組とこれからの薬剤師に期待すること

安川 孝志（厚生労働省医薬・生活衛生局総務課）

第23回日本医薬品情報学会総会・学術大会（2020年開催予定が1年延期）

シンポジウム3

Society5.0 情報リテラシーと情報連携が支える薬剤師業務の新時代

座長：岡橋 孝侍（京都第二赤十字病院薬剤部／医療情報室）

荒 義昭（独立行政法人国立病院機構信州上田医療センター）

オーガナイザー：岡橋 孝侍（京都第二赤十字病院薬剤部／医療情報室）

医療現場での情報システムの利活用～GS1を中心に～

五十嵐敏明（福井大学医学部附属病院薬剤部）

人が繋ぐ 院内外連携・地域連携

小川 充恵（八尾市立病院薬剤部）

業務のICT化（DICT）からみるRiMCS、AIへの展望

若林 進（杏林大学医学部附属病院薬剤部）

0402 通知から見た情報リテラシーのあり方

池田 和之（奈良県立医科大学附属病院薬剤部）

活動成果の発表：

[学会発表] なし

[その他] 計4件